

# 松陵

能代高等学校同窓会  
事務局  
能代高校内  
能代市字高橋2-1  
TEL 0185-54-2230  
題字は神馬会長

## 母校の発展を祈って

会長 神馬恒成

会員各位におかれましてはますますご健勝、ご隆昌のこととお慶び申し上げます。

母校は激動の昭和期と共に歩みを進め、その時々の巨濤を雄々しく乗り越えて発展し続けて、今年六十五周年を迎えました。高橋の地に新たに居を構えて十有余年の歳月を数え、私共会員の永遠のシンボルであります。「松陵」の観を呈するに至りました。

昨年は、年会費導入をいたしましたところ、多くの会員のご理解ご賛同をいただき衷心よりお礼申し上げます。

母校は今、質的な向上を目的に、昨年は六十五分授業への取り組みを開始しております。大卒合格率の向上を願っての大英断と思われまふ。一方、母校の標榜する文武両道のひとつ、部活動の飛躍的な躍進を期して、雪国のハンディをはねかえすべく、雨天体育館の完成をみました。これらは、みな後輩諸君の雄飛に期待する心のあらわれで

あります。

さて、やがて迎える創立七十周年の記念事業に、同窓会としてまいりたいと願っております。一口に図書館建築と申ししましても、多くの越えなければならぬ問題があります。緻密な計画を策定し、是非とも実現したいものと思っております。やがては、能代高校図書館が、学術、文化の中心的存在となり、地域社会に還元されていく日を望むものです。この計画が実行に移される時、会員各位の絶大なご協力を願います。

今年度の総会は、能代高校六十五周年記念同窓会総会と銘うって開催されました。席上、元フイランド大使の高橋正太郎（旧制九期生）氏より「中東情勢について」という記念講演をいただきました。なかなかうかがい知る由もない生々しい内容もあり、一同大変感銘を受けました。また母校の発展と後輩の教育にご尽力いただいで参りました。

旧制十九期生、小林肇氏（東京、中野・榎友和社長）に感謝状をお贈りしました。今年度も東京、秋田等各地の同窓会に出席しましたがそれぞれ特色を持ちながらの開催と懐かしい顔ぶれに会えた喜びにひたり、今さらながら同窓生の絆の強さに、心強さを覚えました。

## 「更なる発展に向かつて」

椎名光雄

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この四月、ご退任されました加賀正隆校長の後任として湯沢商工高校から転任して参りました。県内屈指の名門校能代高校に勤務できますことを光栄に存じております。と同時に責務の重大さを痛感しておるところであります。

どうかよろしくお願い申し上げます。ところで、県内外において各界の重鎮として活躍しておられます本校の卒業生は一万四千三百六十九名を数えるに至りました。その皆様からは、物心両面にわたり多大のご支援をいただいております。改めて厚くお礼申し上げます。

ご存じのように、本校は大正十四年に設立されましたが、設立の要望書の冒頭に「一國文教ヲ以テ興リ、文教ヲ以テ亡ブ」とあります。

年々物あまり傾向に拍車がかかり、物質文明が先行する中にあって、こころした「心」の繋がりを示す会員の姿にふれ、能代高校同窓会の盤石なるを確信したものです。今後のご活躍とご健勝をお祈りします。

このことを踏まえ、生徒に対しては、この「一國文教を以テ興リ、文教ヲ以テ亡ブ」が本校の建学の精神であり、将来は地域社会、各界を背負って立つ人材、エナジエティックメンになれ、と論じておるところであります。

また、私共教職員一同は「現状維持は一種の後退」と心得、本校の更なる発展に向かつて努力致しております。

今、多くの方々の本校に対する要請と期待は、大学進学の際の向上と量の拡大、そして部活動による名声の高揚であると理解しております。

ここ数年、大学への進学者数は、国公立大学へは六十名前後、私立大学へは九十名前後で推移しております。

この数及び進学先は、生徒の本校入学の目的、生徒のもっている力からみまして、決して満足できるものではないと考えます。

大学受験戦線は年々厳しさを増しております。しかし、生徒一人一人のやる気を促し、秘めた力を十全に伸ばすよう創意工夫をもってすれば、質の向上と量の拡大は可能であると確信し、全力で指導に当たっております。

また、部活動においても、かつてのような栄光を手にはできない状況になっております。進学校として、どのような方策をもって処するか大変に難しい課題ではあります。

しかし、すばらしい実績をもつ本校です。その全教育機能を結集して対処すれば不可能ではないと信じ、職員並びに関係者各位と共に鋭意取り組んでおるところです。

近年、高等学校に対してはスクールアイデンティティの確立が求められております。本校能代高校のスクールアイデンティティは、先輩各位が綿々と築いて参りました「文武両道」であり、それ以外の何ものでもありません。

「あれが我が母校、能代高校」と誇らしく自慢できる学校にすることが私の使命であると覚悟しておりますので、同窓生各位のこれまで以上のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 事務局より

●年会費二千元は、同封の払込通知票を用いて、払い込んで下さい。

秋田県立能代高等学校  
 平成二年度  
 同窓会総会  
 記念講演に大感銘

平成二年度の総会は、九月十二日、(母校の創立記念日)能代市、金勇において、盛大に開催されました。今年は創立六十五周年という記念の年でありますので、趣向をこらし、記念講演をセットしました。時流にあわせて、「中東情勢について」と題し彼の地に詳しい元フィンランド大使の高橋正太郎氏(旧九)に講師をお願いしました。その内容は、地理はおろか、心情まで伝わって来る熱気を帯びた、説得力のあるご講演で、百数十名の同窓生は固唾を呑んで聴き入っていました。また校歌扁額や自在の像を母校に贈り、後輩の精神的な寄りどころとなした小林肇氏(旧十九)に対し、神馬会長より感謝状が贈呈されました。

役員改選があり、新たに顧問として宮腰洋逸氏(新五・能代市長)を選出、他役員は全員留任(別掲)を満場一致で承認しました。

席上、同窓会会計より経常費、基金そして年会費の納入状況(別掲)の報告があり、以後懇親会に移り、大盛会のうちに閉会しました。

年会費の納入状況

2・8・31現在  
 I. 収入 金2,559,947円  
 II. 支出 金779,590円  
 III. 現在高(収入-支出) 金1,760,357円

顧問	平川正司(旧4)
副会長	宮腰洋逸(新5)
会長	神馬恒成(旧9)
大塚繁夫(旧10)	花下哲夫(旧12)
伊勢真佐實(旧15)	牛丸幸也(旧19)
柴田仁郁(新6)	小田中純(新7)
工藤絢子(新7)	飯坂茂宣(新12)
會計監査	田口善一郎(旧16)
大坂浩昇(新5)	佐藤一嗣(新12)



感謝状を受ける小林肇氏(旧19期)



神馬会長の挨拶



全員で校歌斉唱



高橋正太郎氏(元フィンランド大使 旧9期)の記念講演